

2024年5月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.92

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

豪雨による洪水被害 が続くケニアにて 支援を開始

エルニーニョ現象の影響によって、世界各地で洪水被害が発生しています。ケニアでは、断続的な雨と洪水による壊滅的な被害が続いており、5月上旬時点で推定210人が死亡し、20万人が避難をしています。学校も閉鎖されています。被災地ではコレラの発生も報告されており、農地や地域インフラに壊滅的な被害が生じています。

被災地域は長年干ばつの影響も受け、不作を繰り返し、人々の困窮度合いは極限にまで達していました。そこを今回の洪水が襲ったことで、被害の更なる拡大が懸念されています。ケニア国内の約半数の地域が影響を受けていて、避難所支援、水と衛生設備、保健衛生、食料品、非食料品、心理社会的支援など、必要不可欠なサービスへのアクセスが欠如しているため、特に女性や子ども、高齢者の健康と安全が脅かされています。



さらに、避難している女性や子ども達に関する保護に関する重大な懸念には、ジェンダーに基づく暴力（GBV）が含まれます。避難先としては、近隣の家、学校、高台にある教会や学校などに避難している状況です。

現地では、洪水による直接的な影響として、人命の損失、財産の甚大な損害、農作物や家畜の損失、感染症による健康状態の悪化などが挙げられます。道路や橋も被害を受け、通常の移動ができなくなっているため、被災地のインフラや通信回線は寸断されています。

CWSでは、この度の被災地域で食料供給や生計向上支援を現地オフィスを通じて行っていますが、想定を上回る被災状況です。タナ川流域の4つの郡では、約15の小中学校が水没したり、完全に閉鎖されたりしています。よって、CWSでは緊急食料支援や、安全な水・衛生支援、生計回復支援などを展開する予定です。また、同じような被災を繰り返さないためにも、この度の教訓から学び、さらなる防災力向上に結び付けるために、日本の防災の経験が活きると考えています。



皆さまのご理解・ご支援を
心よりお願い申し上げます。

継続的な
寄付

今回のみ
寄付

災害リスクの高い コミュニティに おける災害管理能力 強化に向けて 2023年度JICA「草の根技術 協力事業」に採択決定

この度、インドネシアにおける「気候変動適応策の強化と技術支援によるコミュニティ災害レジリエンス向上（I-CREATE）」事業が、CWS Japanとして初めて、JICA「草の根技術協力事業」として採択されました。ここから3年かけて取り組んでいくことになるこの事業の背景を、今回はお届けします。

気候変動の影響により、高まる インドネシアの災害リスク

インドネシアでは地震や津波に加え、サイクロンや豪雨によって引き起こされる洪水や土砂災害なども多く発生しています。2021年4月に東ヌサ・トゥンガラ州に上陸したサイクロン・セロージャによる豪雨と強風は、洪水や地滑り、鉄砲水などの災害被害をもたらしました。



洪水時の様子 ©CWS Indonesia

この災害によって、472,765人が被災し、179人が死亡、271人が負傷、45人が行方不明になったとされています。CWS Japanでは発災から3ヶ月後の2021年7月から2022年1月にかけて、衛生用品、生活用品、そして一時的な避難場所として緊急シェルターキット（テント用品）を提供したり、損傷や汚染した井戸の修復・清掃を行うなど、緊急支援を実施しました。

その取り組みの事後評価も行っており、以下からサマリーをお読みいただけます。

■インドネシア / サイクロン・セロージャ 被災者緊急支援



インパクト・サマリーレポート インドネシア サイクロン・セロージャ 緊急人道支援の 事例から

2023年12月21日

効果的なステークホルダー連携の 強化が急務

気候変動の影響もあり、同地域ではほぼ毎年洪水が発生しています。災害リスクが高まる中、コミュニティ・行政・非政府組織

（NGO）・企業など、社会のステークホルダーが一丸となり、気候変動関連リスクの対策に取り組む必要がありますが、我々の調査の結果、それぞれがバラバラに計画を立てており、効果的な連携が生まれていないことが分かっています。この連携を強化することが、インドネシアの防災力向上を進める上で重要です。

インドネシア:地区防災計画内の主な取り組み・計画

- 川底の浚渫（しゅんせつ）作業
- 堤防の建設（ガビオンを使ったもの）
- 洪水に強い住宅の建設（高床式住宅、高基礎の住宅など）
- 浸透井土やバイオポアホールの設置
- 川岸・川辺での植林（竹、ハイビスカス、マホガニーなど）
- 防災関連の規定の策定
- 木の伐採に関する村の規則の発行
- 災害リスク軽減を前提とした村落開発計画の策定
- 女性貯蓄貸付グループ（女性協同組合等）の設立
- 農民協同組合の設立
- 環境にやさしい有機農業（水耕栽培など含む）
- 生計を多様化するための様々なライフスキルトレーニング（裁縫、ヘアカット、スナック作りなど）
- 村政府と各集落の住民との定期的なコミュニティサービス活動（清掃活動）など
- 衛生的で健康的な生活行動に関する情報共有
- 排水路の整備
- 村の災害対策チームの設立
- コミュニティベース・クロスリジョンベースの早期警報システム（CB-CR EWS）の構築
- 危機対応計画の策定
- 避難経路・避難場所への避難標識の作成・設置
- 水害シミュレーション
- 被災した田んぼの片付け
- 農業保険に関する情報を農民に伝えるセッション
- 牛小屋の建設（高床式の牛小屋）
- 災害に適応した公共施設（DRR視点の公共施設）の復旧・再建
- DRRの視点を持った水道施設（公共タンク、公共蛇口、公共・民間の掘井戸など）の復旧・復興・清掃
- 定期的な環境浄化・衛生促進・公衆便所・家庭便所の建
- 医薬品の供給と集団授業サービス
- 家庭レベルでのDRRを考慮した食料貯蔵庫・納屋の設置

現地で緊急支援後に策定された防災計画に
記載されている主な活動 ©CWS Japan

災害リスクの高いコミュニティにおける災害管理能力強化に向けて

この問題意識を持って計画した案件「気候変動適応策の強化と技術支援によるコミュニティ災害レジリエンス向上（I-CREATE）」が、この度JICA「草の根技術協力事業」2023年度案件として採択いただきました。

■国別事業一覧【インドネシア】

■市民参加 | 事業・プロジェクト-JICA

■草の根パートナー型 | 事業について - JICA

この事業では、効果的な気候変動関連リスク対策のための災害リスクガバナンスの強化、災害レジリエンス向上に向けた関係者間の協力による災害リスク管理、災害リスク軽減の改善、効果的な災害対応のための能力強化を行います。

ここから3年間の取り組みを通じて、災害に強い社会を実現するためのステークホルダー間の連携が強化し、地域の防災・減災計画や取り組みが強化され、災害リスクの高いコミュニティにおいて災害管理能力を強化してまいります。進捗はまた随時アップデートいたします！

(文：事務局長 小美野剛)

【事業進捗報告】
インドネシア
災害リスクの高い
コミュニティにおける
災害管理能力強化に向けて

たった一人のためにも、世界をつなごう。
CWS JAPAN
Church World Service



さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み



CWSJapan | note

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大震災を機に、日本で活動を開始しました。毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を...

note (ノート)

最も脆弱な人たちの ために働く 五十嵐望美 (プロジェクト・オフィサー)

みなさん、初めまして！この度CWS Japanに入職し、プロジェクト・オフィサーとして働き始めました五十嵐望美いがらしのぞみと申します✿

今回は私の自己紹介を兼ねて、なぜ私がCWS Japanで働き始めることになったのかについてご紹介できればと思います！

これまでの取り組み

私はこの3月に通っていた大学院と専門学校を卒業し、新卒職員として4月からCWS Japanに入職することになりました。

大学院では歴史社会学(アメリカ史)を専攻して、黒人女性史(ブラック・フェミニズム史)の観点から人種やジェンダーという二重の差別によって苦しめられ周縁化・不可視化されてきた黒人女性たちが差別撤廃のために草根の運動を行ってきた歴史について研究してきました。また、昨年からは社会福祉士の国家資格取得を目指して専門学校にも通い、今年2月に受験した国家試験を無事突破して、資格を取得することができました！

そのため、最近の取り組みでいうとCWS Japanが事業として行う国際協力分野に近い活動をしてきたとは言えませんが、幼い頃からずっと関心のあったNGO/NPO業界で自分のキャリアを始めることになった今は、とてもワクワクしています！



先日宮古島を訪れた時に、
そこで出会った台湾の友人が撮ってくれた一枚。

災害ボランティアで得られた繋がり と気づき

これまで私はボランティア(またはインターン、アルバイト)として、さまざまな分野の社会的な活動に取り組んできましたが、その中のひとつがCWS Japanが取り組む災害支援活動です。災害支援の現場におけるボランティア活動の経験を通して、大切な気づきや学びを多く得ることができましたし、今の私にとってもその経験がライフワークのように感じてきたところがありました。

それまで「災害」といえば、関西に暮らす私の祖母が阪神淡路大震災の被災者だったので、その時の話を聞く機会は幼い頃から身近にありましたが、私が生まれる前の出来事だったので正直実感としてはあまり持てていませんでした。しかし、2011年の東日本大震災は私にとって初めて経験した大きな災害であり、私が住んでいる東京でも暮らしに影響がありました。また、当時中学生だった私は、もともと被災地の東北地域との個人的なつながりはなかったものの、甚大な被害を受けている地域に対して何かできることはないだろうという大きな焦燥感に駆られて、ソワソワしていたことを今でもよく覚えています。

それから被災地のボランティア活動に参加する機会があり、それをきっかけに出会った宮城県南三陸町の漁師さんたちとは今でも交流を続けていて度々訪れるようになりました。



南三陸町の漁師さんが働く港にて、
採れたての茹で上げわかめをしゃぶる高校生の私

また、大学生になってからは、東北のほかにも在学中に発生した熊本地震の被災地でのボランティア活動にも参加し、NPO団体が支援して建てた私設の避難所で暮らす方と一緒に生活しながらお手伝いをしたり、地域の農家の方の農作業のお手伝いや、中学生の受験勉強のお手伝いなど、さまざまな活動に関わることができました。

これらの経験を通して、実際に現地に行ってみないとわからないことが沢山あること、その地域で生活している人と直接会って話を聞くことの大切さについて気づきました。また、日頃から同じ地域に住む人同士が顔をあわせながら作っていくネットワーク・関係性づくりと防災への意識づけが十分にできているかによって、いざ非常事態が起きてそこから生じる被害を最小限にするための素早い協力・支援体制が構築できるかが重要であることについても学ぶことができました。



熊本県南阿蘇村の中学校で、
受験を控える中学生たちの勉強をサポートする私

最も脆弱な立場に置かれても、その人らしく生きられる社会とは？

また、社会課題について学べば学ぶほど、構造的に社会から排除されて取り残されてしまう人たちがいることに対して、どうしたらこういう立場に置かれる人が苦しまずにすむような社会にできるのかについてさらに探究したいと思い、一年間大学を休学してイギリスの語学学校や大学で国際関係学などを学ぶ留学を経験したり、帰国・復学してからは大学院に進学して前述のマイノリティ関連の研究や国内でマイノリティ属性がある人をエンパワメントする活動にも取り組みながら、自分なりにその学びを深める時間を過ごしてきました。

その中でも、特に日本でも多文化共生が叫ばれるようになった一方で、日本で暮らす移民・難民の方が外国人としての差別を受けながらきわめて立場が不安定な状態で困難な生活を強いられ続けている状況や、障がいや女性、LGBTQをはじめとしたセクシュアル・マイノリティの人権や尊厳がなかなか守られていない状況に対して、どうにかならないのだろうかという奮闘・模索するようになりました。そこで、今後もし自分がそうした人たちを支える支援者として活動する立場になった際には、支援を必要とする人に対して必要な支援に繋げるための知識・技術を身につけたいと思い、ソーシャル・ワーク(社会福祉)を学ぶことにしました。

よって、これまでの私が最も脆弱な立場に置かれた人が社会的排除を受けることなく生きていくことのできる社会の実現を構想しながら歩んできた道のりには、CWS Japanが実現したい社会像やそれを実現するための支援活動において大切にしてきた理念やアプローチとも重なる部分が多くあったのだと今は感じています。

ただ、私にとってCWS Japanが現在事業を行っているアジア地域の国々のほとんどはこれまで訪れたこともない縁のなかった場所なので、これから新たなチャレンジもあるのではないかと思います。また、社会人経験もない状態でこのキャリアをスタートしているので、周りのサポートを得ながらやっていく場面がたくさんあるかと思いますが、これまで培ってきた知識や経験を活かしてCWS Japanが大事にしてきた現地の人を支えていく支援活動をしていけるように、私もこれから共に探求していければと思っています。そして、たとえ社会的に弱い立場に置かれたとしても、絶望することなく希望を持って一歩ずつ歩いていくことができるような社会にするためにも、今後も奔走していきたいと思っています。

これから皆さんにはお世話になることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します！

(文：プロジェクト・オフィサー
五十嵐 望美)

「外国人高齢者と防災～私たちが今できること～」を開催しました

今回は先日コミュニティ・カフェ@大久保で開催したイベントの簡単な報告と、地域イベントの出演についてお知らせです📢

「外国人高齢者と防災～私たちが今できること～」を開催しました！

大久保の日本福音ルーテル東京教会で月2回（第1・第3水曜日）オープンしているコミュニティ・カフェ@大久保ですが、GWの連休に挟まれた5/1(水)には「外国人高齢者と防災～私たちが今できること～」と題してイベントを開催しました🎉

コミュニティ・カフェ@大久保では、これまでも何度か福祉に関連するテーマを設定し、福祉職の方からお話いただく機会を作ってきました。



↑こちらの記事の後半にある松本牧師のインタビューの中でも、以前行ったイベントについて少し紹介しています。

そして、今回は以前からCWS Japanが行ってきた大久保地域の多文化共生×防災事業の取り組みを踏まえ、もし今後大規模災害がこの多文化共生が進む地域を襲ってきた時に備えて、今から取り組むべきことについて地域の皆さんと一緒に考えたいと思い、企画しました。

特に、災害時に必要な支援から取りこぼされてしまう可能性が高い脆弱性を持つ外国人高齢者の課題をテーマに行いました。



外国人が被災するとどうなる？

今回の「外国人高齢者と防災」では、そうした問題意識の共有や様々な統計・ケースなどの情報を共有する場として、在日韓国人福祉会さんと大久保高齢者総合相談センターさんのご協力を得てそれぞれお話し頂きました！

まず最初にCWS Japanの牧から、新宿区の外国人住民の状況や防災意識についてのアンケート結果の紹介を交えながら、東日本大震災の外国人被災者の事例や調査データなども共有し、今後もし大久保地域で大規模災害が起きた際にどのような課題が想定されるかについて共有を行いました。

そして、大久保高齢者総合相談センターさんからは大久保地域では独り暮らしの高齢者の割合が多いことや、相談を受けている外国人高齢者のケースや統計について共有いただきました。



そして、在日韓国人福祉会の方からは外国人高齢者である利用者さんのケースについてご紹介頂きました。また、利用者さんにも何か困った時に相談するとしたらどういう相談先が思い浮かぶのかについて聞いてみたところ、行きつけの美容院や喫茶店を挙げている方がおられたということでした！

また、高齢になると認知症の影響によって新しい記憶である日本語を話すことが難しくなり、母語しか話せなくなってしまう特徴があることから、言語の問題が大きく関わるものが改めて共有されました。



当日は地域の福祉に携わる専門職の方や消防署の方など、さまざまな形で地域を支えている方にもこの課題について関心を寄せていただき、参加者の皆さんとも意見を交わす有意義な時間となりました👥💡

5/18(土)は五月祭りに出店しました！
そして、5/18(土)には大久保地域センターで開催される五月まつり(さつきまつり)にコミュニティ・カフェ@大久保が出店！👏🎈
(当日の様子はまた後日お届けしたいと思います)



コミュニティ・カフェ@大久保では通常のカフェ営業のほかにも、地域のイベント出店もしているので、その際は気軽に遊びに来てもらえたら嬉しいです！

コミュニティ・カフェ@大久保の取り組みが気になる人は、SNSのアカウントで随時更新していますので、ぜひフォローしてチェックしてみてください。

(文：プロジェクト・オフィサー 五十嵐 望美)



Community Cafe Okubo



コミュニティ・カフェ@大久保



commucafe2023

【参加者募集中！】 6/16-21 防災グローバルフォーラム2024

今回は近々開催される、CWS Japanが参加するイベントについてお知らせします📝

どなたでも参加できるイベントとなっておりますので、ご関心のある方はぜひお申し込みいただき、それぞれのテーマについて共に考える時間を過ごせたらと思います。

6/16-21 防災グローバルフォーラム2024

2024年6月16日（日）～21日（金）に、兵庫県姫路市で開催される世界銀行主催の「防災グローバルフォーラム2024」にCWS Japanも参加します。

6月20日（木）16:00-17:00のセッションにおいて、小美野事務局長が登壇し、

How can Japan contribute to “Early Warnings for All”?: Introducing cross-sector initiatives and good practice
をテーマにお話しする予定です。

セッション概要

開催日時：2024年6月20日（木）16:00-17:00

場所：アクリエひめじ（兵庫県姫路市神屋町143-2）

タイトル：How can Japan contribute to “Early Warnings for All”?: Introducing cross-sector initiatives and good practice

※防災グローバルフォーラム2024とは
日本を含め世界中から数百名の防災に携わる政府関係者、NGO、企業や専門家が集まり、自然災害からのリスクをより理解するための新たな取り組みや減災を実装する上での最新の課題などについて、様々な形で議論が行われます。（参考）

▼詳細・お申し込みはこちらから



防災グローバルフォーラム2024：自然災害リスクへの理解を深める
(Understanding Risk Global Forum 2024 (UR2024))

2024年6月にUnderstanding Risk フォーラムが兵庫県姫路市（アクリエ姫路）をメイン会場に行われます。三日間のメインイベントには、日本を含め世界中から数百名の防災に携わる政府関係者、NGO、企業や専門家が集まり、自然災害からのリスクを...

World Bank / Jun 16

NEWS

UPDATE



日本ファンドレイジング協会の企画のもと
「特集・国際協力NGOのファンドレイジング～“遠く”の社会課題に関心と参加を生み出す方法～その最前線を探る」と題した対談に、五十嵐職員が参加しました。

第3回にわたって、対談記事が掲載されています。下記よりお読みいただけます。

特集

国際協力NGO
のファンドレイジング

“遠く”の社会課題に関心と参加を生み出す方法～その最前線を探る

国際協力NGOのファンドレイザーに
求められる「伝える力」



国際協力NGOのファンドレイザーに求められる「伝える力」

日本ファンドレイジング協会は、2009年に日本全国47都道府県から580人の発起人の賛同を受け、寄付・社会的投資が進む社会の実現を目指して設立されました。民間非営利組織のファンドレイジング（資金集め）に関わる人々と、寄付など社会貢献に関心...

Fund Raising Journal

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)